

経営比較分析表（令和5年度決算）

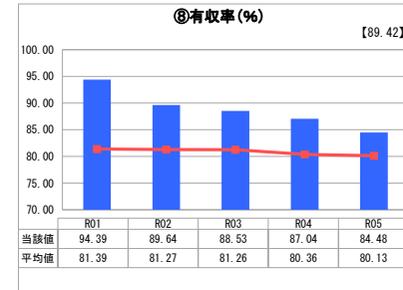
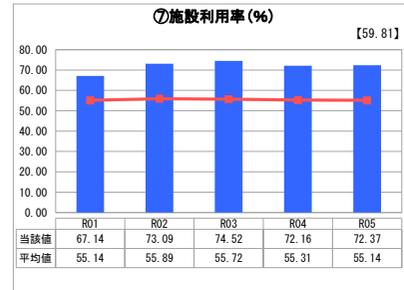
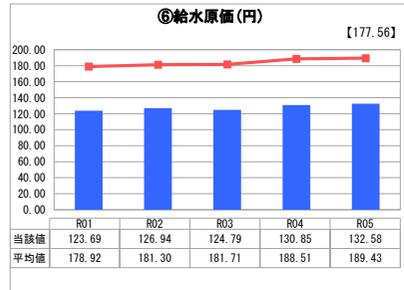
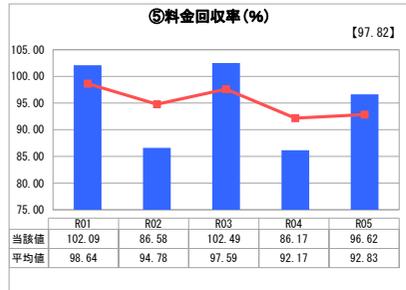
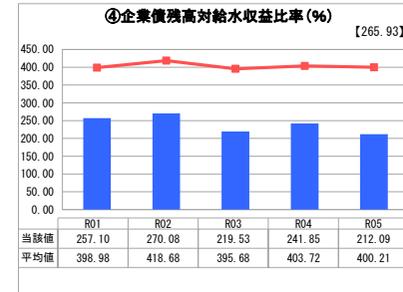
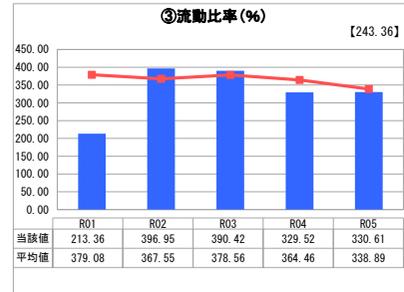
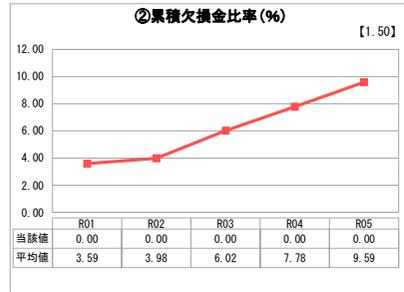
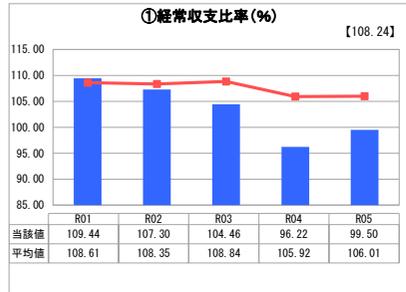
栃木県 野木町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	82.70	89.48	2,530	

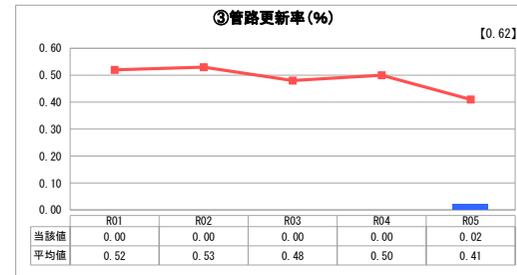
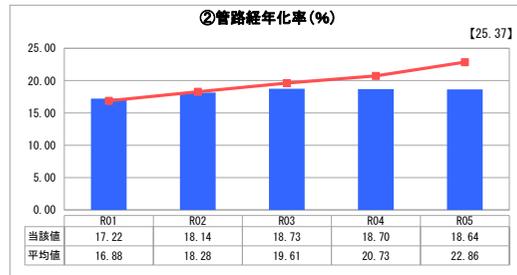
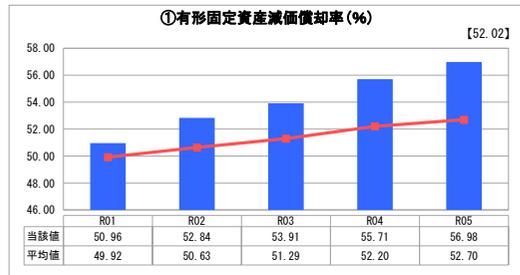
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,006	30.27	826.10
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
22,335	20.80	1,073.80

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率が100%を下回っており、単年度の収支が赤字であることが示されている。これは近年の物価高騰により、経常費用が年々増加傾向にあることが要因である。
 ② 累積欠損金比率については、当年度未処理欠損金が生じていないため0%となっている。
 ③ 流動比率においては類似団体平均値を下回っているが、目安である100%は十分に上回っているため、支払能力に問題は無い。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値を下回っている。他団体より借入残高が少ないことが想定されるため、適正な投資規模を見極め、対応していく必要がある。
 ⑤ 料金回収率は100%を下回っている。これは、経常収支比率と同様であり、物価高騰により給水原価が増加傾向にあることが要因である。
 ⑥ 給水原価は類似団体平均値を下回っているが、増加傾向にあるため、費用の削減と併せて適正な収入規模を検討していく必要がある。
 ⑦ 施設利用率は類似団体平均値を上回っており、比較的効率的な施設の利用状況になっている。
 ⑧ 有収率は類似団体平均値を上回っており、配水に対し、比較的料金収入に結びついている状況ではあるが、年々減少傾向にあり、施設の老朽化も進んでいるため、漏水対策等検討していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は類似団体平均値を上回っており、増加傾向にある。持続可能な水道事業の運営を図るため、耐用年数を迎える資産の更新に備え、適正な投資規模、財源の確保を検討する必要がある。
 ② 管路経年化率は類似団体平均値を下回っているが、計画的に更新を行う必要がある。
 ③ 令和5年度は管路の更新を一部行ったため、管路更新率に数値が反映されている。耐用年数を超過する管路が増加していくことに対応するため、計画的に更新を行う必要がある。

全体総括

令和5年度においては、年々の物価高騰により、維持管理に要する費用が増加傾向にあるため、経常収支比率、料金回収率が低い水準になっている。費用の削減と併せて適正水準の収入確保に向け検討していく必要がある。
 給水原価、施設利用率、有収率等、給水に対する効率は他団体と比較して高水準にある。
 施設の老朽化が進んでいるなかで、企業債残高対給水収益比率が低水準であることも踏まえ、適正な投資規模を見極めつつ、持続可能な水道事業を運営するため、計画的な施設の更新を行う必要がある。